

洋上風力発電市場と航空機需要

洋上風力発電施設とヘリコプター人員・物資輸送

洋上風力発電は発電時に二酸化炭素を排出しない為、脱炭素社会の実現や持続可能な開発目標（SDGs）に資するクリーンエネルギーとして需要が高まっています。今月は洋上風力発電施設へのヘリコプターによる人員・物資輸送についてご紹介します。

■ 洋上風力発電とは？

洋上風力発電は、海上に風車を設置し風力エネルギーにより発電する方法で、海底に固定する着床式と海面に浮かべた浮体式の2種類があります。浮体式は設置や整備コストが高い反面、水深が深い場所にも設置可能というメリットがあります。また、陸上風力発電と比較して、①安定的な風力を獲得できる、②土地や道路等の制約が無い、③騒音や景観への影響が小さい等の利点があります。これにより、安定的かつ効率的な発電や風車の大型化が可能となります。こうした背景から、欧州を中心に急速に普及拡大が進められています。

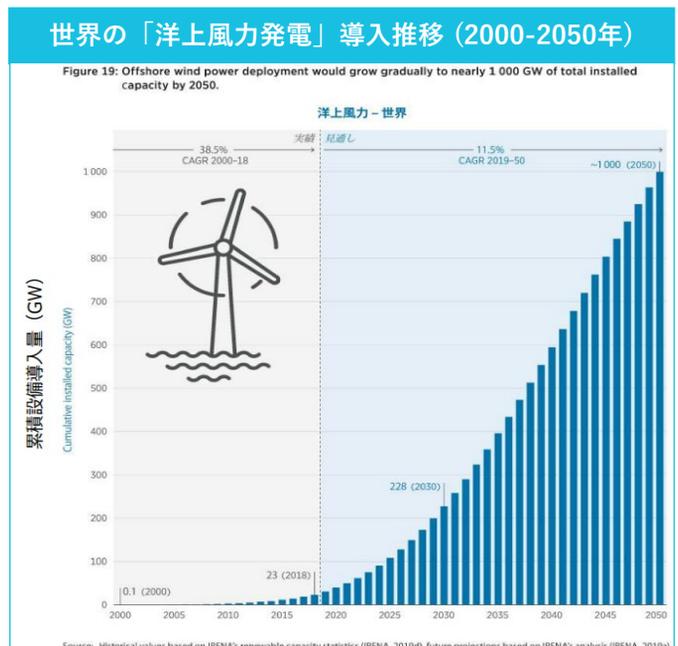
■ 洋上風力発電の世界市場規模

国際再生可能エネルギー機関（IRENA）によれば、洋上風力発電の導入量は2010～20年に2.9GWから35GW（原子力発電所35基分）へ約12倍に拡大しており、2030年には全世界で228GW、2050年には1,000GWに達する見通しです。欧州が市場全体の70%以上を構成していますが、2020年の新規導入量6.1GWの内、中国が50%を占める等、アジアでも急速に拡大しており、日本では2022年に初の商業運転を開始しています。北米地域では、米国が2022年に浮体式洋上風力発電の商業導入を発表しており、15GW（原子力発電所15基分）の発電能力を目指す方針です。

■ 洋上風力発電におけるヘリコプター需要

洋上風力発電の普及に伴い、深海や離岸への設置が進んでおり、風車の大型化と集積により、運用・維持管理コストの削減が重要な課題となっています。**洋上風車の設置には大規模な海域を必要とし、陸地からの作業員や資材の移動・輸送も長距離に及びます。**こうした課題を解決する為に、ヘリコプターによる人員・物資輸送が重要な役割を果たしています。洋上風力発電市場は2050年までに現在の約30倍に拡大する見込みであり、ヘリコプターの需要も市場拡大に伴い堅調に推移するものと思われます。

ITCは「公共性」・「社会貢献性」の高いリース事業を法人・個人の投資家様にご提供して参ります。ご関心をお持ちいただけましたら、是非ご連絡ください。



(出所) IRENA "Future of Wind" Figure 19 (2019年10月), 自然エネルギー財団